

---

# 第11回愛媛形成外科研修会

## 抄 録 集

---

日 時 平成15年 6 月28日 (土) 17時～

場 所 国立病院四国がんセンター  
管理棟 2 階会議室

TEL : 089-932-1111

当番世話人 愛媛県立中央病院形成外科  
小林 一夫

# 研修会プログラム

## SECTION 1 1～3 (17:00-17:30)

座長 庄野 佳孝 先生

### 1. Lipoblastomatosis の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○松本由美子、中岡 啓喜、森 秀樹、  
永松 将吾、向井 知子、笠井 雅奈、  
光野 乃祐、大塚 壽

2歳、女兒。妊娠中異常なく、正常分娩で出生。生後8ヶ月頃より臍左横に直径2cm程度の軟腫瘤が出現した。10ヶ月頃より前胸部に、13ヶ月頃より左大腿部にも同様の腫瘤が出現した。徐々に増大認めたため、当科受診。CT、MRIでは、fat intensity massであった。臨床症状および病理学的検査でbenign lipoblastomatosisと診断された。文献的考察を加え報告する。

### 2. 胸骨傍部皮膚瘻の 1 例

済生会今治病院 形成外科

愛媛大学医学部附属病院 手術部\*

○野澤 竜太、大塚 壽\*

症状は4歳、女兒。1歳頃、母親が左胸骨傍部の炎症を伴う小孔に気づく。以後、さらに2度の炎症歴あり。皮膚瘻は、坐位で、前胸部正中より左側10mm、鎖骨下縁より8mm尾側に存在し、周囲に8mm大の硬結を認めた。瘻後部を染色

後、瘻孔摘出術施行。瘻孔は約8 mmで尾側下方に向い、組織学的には重層扁平上皮からなり、周囲に脂腺組織などを認めた。

### 3. 診断に苦慮した足趾潰瘍の1例

国立病院 四国がんセンター 形成外科

○河村 進、前場 崇宏

80歳女性。2002年11月頃、右第1趾のいぼを取ろうと市販薬で自己処置を続けていたところ、感染を来し潰瘍化した。近医受診し、軟膏処置を続けるも徐々に悪化するため2003年2月、当科紹介となった。当科で保存的治療を続けるも悪化するため、悪性腫瘍を疑い、生検を2回施行したが陰性であった。潰瘍底で腱・関節腔が露出してきたため、骨髓炎を疑い4月25日趾切断術を施行した。画像所見・術中所見は骨髓炎と思われたが、病理組織検査ではSCCとの診断であった。

## SECTION 2 4～6 (17:30-18:00)

座長 浜田 裕一 先生

### 4. 沖縄県立中部病院における乳房再建の現状

沖縄県立中部病院 形成外科

○新城 憲、石田 有宏、西関 修

当科における乳房再建の現状と整容性向上のための要点、工夫について報告する。

過去10年間の全乳房再建症例は63例で、再建材料は、腹直筋皮弁46（うち遊離皮弁37）、広背筋皮弁16、大殿筋穿通枝皮弁1であった。

整容性向上の要点は、1. 遊離腹直筋皮弁を第一選択とし、より対称的な形態を再現。2. 乳房皮膚または乳輪乳頭温存の適応を設定。3. 乳房皮膚温存例では乳頭も同時に再建。4. 乳房下縁溝の温存。5. 複数の人工色素による乳輪乳頭刺青などである。

### 5. 手背伸筋腱拘縮に対し、遊離側頭筋弁を用いて再建した1例

愛媛県立中央病院 形成外科

おがた形成外科\*

○徳永 和代、小林 一夫、緒方 茂寛\*、  
浜田 裕一、槇野 祥生

手背の壊死性筋膜炎に対し、背部からのメッシュグラフトによる創閉鎖を受けた26歳の女性が、手の機能と整容的な改善を求め当科受診となった。右手関節、中指から小指に渡る伸筋腱の癒着と虫様筋、骨間筋の萎縮が認められ、マニプレーション、遊離側頭筋膜弁と兎径部よりのシート植皮を計画した。内

在筋の萎縮のためMP関節の屈曲、伸展は不十分であるが、満足する結果が得られたので報告する。

## 6. 遊離組織移植におけるプリサイスの使用経験

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○中岡 啓喜、森 秀樹、向井 知子、  
松本由美子、笠井 雅奈、光野 乃祐

遊離組織移植における静脈吻合で、手縫い縫合と自動血管吻合器（プリサイス）を使用した場合の影響を検討した。血管吻合時間の短縮、静脈血栓の発生率の低下、生着率の向上などの利点が認められたので報告する。

**愛媛形成外科研修会総会 (18:00-18:20)**

## SECTION 3 7～9 (18:20—18:50)

座長 手塚 敬 先生

### 7. 当科における前頭骨骨折の治療

愛媛県立中央病院 形成外科

おがた形成外科\*

○槇野 祥生、小林 一夫、緒方 茂寛\*、  
浜田 裕一、徳永 和代

前頭骨骨折は、その解剖学的特徴から前頭洞内および頭蓋内感染や粘液膿胞等の種々の合併症を伴いやすく、的確な治療が必要となるうえ、前頭部の形態的改善も重要である。今回、我々が行っている方法を報告する。症例は、16歳男性で、転倒し受傷した。前頭骨、鼻・篩骨骨折を認め、受傷後19日目に観血的骨整復術、T-tube 留置、骨移植術を施行した。

### 8. Horner 症候群の2例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○向井 知子、中岡 啓喜、森 秀樹、  
松本由美子、光野 乃祐、大塚 壽

Horner 症候群による眼瞼下垂の程度は比較的軽度であり、上眼瞼挙筋短縮術により良好な結果が得られる。最近 Horner 症候群による眼瞼下垂の2症例（【26歳、女性。左頸部の神経芽細胞腫摘出後】【29歳、女性。左頸部の神経鞘腫摘出後】）を経験したので文献的考察を加えて報告する。

## 9. 当院で行っている超音波メスを用いた腋臭症治療

宮本形成外科

○戸澤 麻美、宮本 義洋、宮本 博子、  
岩垂 鈴香

1995年から2002年の8年間に超音波メスを用いた腋臭症治療を621例（男性147例、女性474例）に行った。超音波メス法は剪除法と比較して、血腫が起こりにくく、長期間の圧迫、運動制限が必要ないという利点がある。当院での手術方法、合併症について述べる。

## SECTION 4 10～11 (18:50－19:15)

座長 渡部 降博 先生

### 10. 上眼瞼陥凹症における二重瞼術

美容外科 さくらクリニック

○福井 卓也

眉毛の挙上、またそれに伴う上眼瞼の陥凹を呈している軽度の眼瞼下垂症例において、挙筋腱膜前方転移固定術および前額部ボツリヌストキシン注射併用により、二重瞼を比較的容易に作製できるので症例を呈示し、若干の考察を加え発表する。

### 11. 上口唇母斑切除後醜形

済生会今治病院 形成外科<sup>1)</sup>

愛媛大学医学部附属病院 手術部<sup>2)</sup>

○野澤 竜太<sup>1)</sup>、大塚 壽<sup>2)</sup>

症例は16歳、女性。生来、赤唇から白唇にかけて母斑を認め、1歳時に左耳後部からの植皮術、1歳6ヶ月時に頬粘膜移植術を受けたとのことである。初診時、軽度の醜形、色素沈着、痂皮などを認めた。治療法などにつき御意見を賜りたく症例を供覧する。

症例検討会 (19:15－19:30)